平成３０年度（平成２９年度事業対象）

大洗町の教育に関する事務管理及び執行状況の点検・評価報告書

大洗町教育委員会

－　目　次　－

第1　点検・評価の概要　……　1

1.　趣旨
2.　点検・評価の対象
3.　点検・評価の方法
4.　大洗町教育委員会評価委員名簿
5.　評価委員会実施日

第2　教育委員会の活動状況　……　3

1.　大洗町教育委員会について
2.　教育委員会会議の開催状況について
3.　平成29年度教育委員会の予算・決算状況について
4.　主な教育委員会の活動状況について

第3　教育委員会事務事業の点検・評価シート　……　14

1.　豊かな人間性をつちかう教育の推進　（No.1～7）
2.　確かな学力を身に付ける教育の推進　（No.8～9）
3.　健康な心と体を育てる教育の推進　（No.10～13）
4.　学校・家庭・地域の連携　（No.14）
5.　社会の変化に対応した教育の充実　（No.15～16）
6.　質の高い教育環境の整備　（No.17～18）

第4　評価委員からの総合評価・意見　……　51

第１ 点検・評価の概要

１． 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和31年法律第162号。以下「地教行法」という。）により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに公表することが義務づけられています。

本報告書は、地教行法第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに町民への説明責任を果たすため、平成29年度における大洗町教育委員会の事務事業の点検・評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

> 地方教育行政の組織及び運営に関する法律　（抜粋）
> （教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
> 第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
> ２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２． 点検・評価の対象

大洗町教育振興基本計画に基づき、平成29年度に実施した教育委員会の活動の状況及び主要施策とします。

３． 点検・評価の方法

大洗町教育委員会の主要施策について、事務事業ごとに自己評価を行ったうえ評価シートを作成し、大洗町教育委員会評価委員より評価シートをもとに意見・助言をいただきました。

4. 大洗町教育委員会評価委員名簿

任期:平成30年4月1日～平成31年3月31日

氏　名	役　職　等
生越　達	茨城大学 教授
平山　洋美	元学校長

※敬称略

大洗町教育委員会評価委員規則

(設置)

第1条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、大洗町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うに当たって、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、大洗町教育委員会評価委員（以下「委員」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条　委員は、次に揚げる事項を所掌する。

(1)教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について意見を述べ、又は助言を行うこと。

(2)前号に揚げるもののほか、必要と認める事項

(定数等)

第3条　委員の定数は、2人以内とする。

2　委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条　委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　委員は、再任されることができる。

(補則)

第5条　この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

5. 評価委員会実施日

①平成30年10月2日(火)　　②平成30年11月6日(火)

第２　教育委員会の活動状況

１．　大洗町教育委員会について

大洗町教育委員会は、(地教行法第4条第1項・第2項により) 町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4名の委員をもって組織されています。また、(地教行法第4条第5項により)委員には保護者が含まれるようにしています。

平成27年度から地教行法の改正により、教育委員会を代表する教育委員長と事務局を統括する教育長が一本化されました。よって、教育長が、教育委員会会議の主宰や事務の執行、事務局の指揮監督など、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表することとなります。

平成29年度　大洗町教育委員会

職　　名	氏　　名	就　　任　　日
教　育　長	飯 島 郁 郎	地教行法の改正により 平成27年　4月1日就任
委　　員	會 澤　　治	平成25年10月1日就任 平成27年　4月1日 教育長職務代理者就任
委　　員	鯨 岡 敬 子	平成25年10月1日就任 平成29年9月30日退任
委　　員	岡 部 千 草	平成29年10月1日就任
委　　員	伊 藤 雅 彦	平成26年10月1日就任
委　　員	下 山 一 仁	平成26年10月1日就任

2．　教育委員会会議の開催状況について

教育委員会の会議においては、大洗町教育委員会事務委任規則第 2 条各号に掲げる事務や、特に協議を要する事項について審議し決定します。そのほかについては教育長にその事務を委任しています。

教育委員会の会議には定例会と臨時会があり、定例会は毎月開催し、臨時会は必要に応じて開催しています。平成29年度は、定例会を計12回開催しました。

教育委員会会議	開催回数	議案件数	協議件数	報告件数	選挙件数
定 例 会	12回	16件	2件	27件	0件
臨 時 会	0回	0件	0件	0件	0件

○定例会議内容

年　月	議　事　内　容
平成29年4月	【議案】 ・大洗町教育委員会事務局組織規則の一部改正について ・大洗町教育委員会公印規則の一部改正について ・大洗町立学校職員の教員評価に係る評価結果に対する苦情対応に関する要項の一部改正について ・大洗町教育委員会臨時職員等の給与に関する取扱要項の一部改正について ・大洗町史跡調査検討委員の委嘱について
	【報告】 ・区域外就学申請の承諾について ・区域外就学届出（私立）の承諾について ・寄付受け入れについて
	【その他】 ・放課後子ども教室事業について ・第20回大洗町近郊中学校バスケットボール大会について
平成29年5月	【報告】 ・指定校変更許可申請の許可について ・青少年相談員の委嘱について ・寄附受け入れについて

	【その他】 ・学校訪問について ・公民館講座受講者数について ・大洗町中央公民館図書室の窓口延長について ・大洗町高校生議会について ・第20回大洗町近郊中学校バスケットボール大会の結果について ・東茨城郡総合体育大会について ・講演会「大洗町と方言」について ・ノスタルジー大洗写真展出展写真の公募について
平成29年6月	【報告】 ・平成29年度大洗町奨学生について ・指定校変更許可申請の許可について
	【その他】 ・北海道洋上体験学習事業について ・学生向け自習室（視聴覚室開放）の開設について ・水泳教室事業について ・第1回ひぬま夏海マラソンの開設について ・第74回国民体育大会大洗町実行委員会の開催について ・花いっぱい運動の協力依頼について
平成29年7月	【議案】 ・平成30年度小・中学校において使用する教科用図書（特別の教科　道徳を含む）並びに小・中学校特別支援学級（知的障害）において使用する教科用図書について ・大洗町奨学資金支給条例の一部を改正する条例 ・大洗町奨学資金支給条例施行規則の一部を改正する規則 ・大洗町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部を改正する告示
	【報告】 ・準要保護児童生徒の新規認定について
	【その他】 ・海っ子・山っ子交流事業について ・講演会「大洗海岸の自然と歴史」について

	・第１回ひぬま夏海マラソンの実施報告について ・第22回石井藤吉郎杯中学校野球大会について ・国民体育大会周知活動について
平成29年8月	【議案】 ・平成29年度大洗町一般会計補正予算(教育費関係)に対する意見について
	【協議】 ・大洗町の教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価(案)について
	【その他】 ・通学合宿について ・平成29年度大洗町・那須町ジュニアリーダー交流研修会について ・芸術文化祭について
平成29年9月	【協議】 ・大洗町の教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価(案)について
	【報告】 ・指定校変更許可申請の許可について ・寄附受け入れについて
	【その他】 ・平成29年度全国学力・学習状況審査の結果報告について ・図書室延長業務及び学習室開放の実績について ・第22回石井藤吉郎杯中学校野球大会の結果について ・大洗町民スポーツフェスティバルについて ・大洗町幕末と明治の博物館特別展 「センチメンタル　池田修三木版画展ー少女・こども・ふるさとー」について
平成29年10月	【報告】 ・準要保護児童生徒の新規認定について

	【その他】 ・学校訪問について ・文化財企画展「原始の海と縄文の美」について
平成29年11月	【議案】 ・平成29年度大洗町一般会計補正予算(教育費関係)に対する意見について ・大洗町の教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について
	【その他】 ・平成30年成人式について ・第72回三浜駅伝競走大会について ・「三宅狂言会　狂言鑑賞会」について
平成29年12月	【議案】 ・善行青少年の審査について
	【報告】 ・準要保護児童生徒の新規認定について ・寄附受け入れについて
	【その他】 ・大洗音楽祭2018の開催について ・文化財防火デーの開催について ・原始の海と縄文の美の結果について ・第72回三浜駅伝競走大会の結果について ・友好都市交流事業「サイクリングin大洗2017」の報告について ・第35回大洗マラソン　サンビーチ・マイルレースの開催について ・池田修三木版画展の結果について
平成30年　1月	【報告】 ・指定校変更許可申請の許可について ・区域外就学届(私立)の承認について
	【その他】 ・平成29年度卒業式・平成30年度入学式の日程について ・ノスタルジー大洗写真展2018について

	・太鼓の祭典2018について ・明治維新150年記念講演会「大政奉還と第15代将軍　徳川慶喜」について
平成30年　2月	【議案】 ・平成29年度大洗町一般会計補正予算(教育費関係)に対する意見について ・平成30年度大洗町一般会計予算(教育費関係)に対する意見について
	【報告】 ・指定校変更許可申請の許可について ・区域外就学申請の承諾について ・区域外就学届(私立)の承認について ・準要保護児童生徒の新規認定について ・準要保護児童生徒の継続認定について ・善行青少年の追加について ・寄附受け入れについて
	【その他】 ・「県学力診断のためのテスト」結果について ・懐かしの磯浜築港を探ろう！の開催について ・第18回全国体操小学生大会の開催について ・生涯学習フェスティバルについて
平成30年　3月	【議案】 ・平成30年度教職員の人事異動の内申について
	【報告】 ・大洗町教育委員会教育長の任命について ・指定校変更許可申請の許可について ・区域外就学申請の承諾について ・寄附受け入れについて
	【その他】 ・教職員定期異動辞令交付式について ・「青少年おもてなしカレッジin大洗2018」について

3. 平成29年度教育委員会の予算・決算状況について

平成29年度教育費(歳出)の当初予算額及び決算額等については、次のとおりです。

・教育費の当初予算額は9億7,664万9千円であり、一般会計歳出予算に占める割合は12%となっています。(予算現額は9億8,922万3千円)
・決算額は8億9,105万9千円であり、町一般会計決算額に占める割合は10．3%となっています。教育費予算現額に対する執行率は、90．1%です。
・平成29年度の町民1人あたりの教育費は52,170円です。
また、児童生徒1人あたりの教育費は、 94，052円(小学校)、195,158円(中学校)です。

○ 町当初予算に占める教育費の割合の推移

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
町予算総額	11,670,000	8,960,000	8,150,000
うち教育費	2,274,144	815,853	976,649
割合	19.5%	9.1%	12.0%

・平成27年度教育費は、大貫小・夏海小統合新校舎整備の工事費等により町予算総額に占める割合が例年と比べ大きくなっています。

○ 平成29年度教育費予算額

(千円)

項	当初予算額	補正予算額	繰越額	予算現額
教育総務費	549,795	△14,511	0	535,284
小学校費	82,908	400	0	83,308
中学校費	88,239	4,625	0	92,864
幼稚園費	19,362	650	0	20,012
社会教育費	162,710	13,210	0	175,920
保健体育費	73,635	8,200	0	81,835
計	976,649	12,574	0	989,223

○ 教育費決算額の推移

(千円)

	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
教育総務費	1,832,126	82.81%	395,240	48.32%	468,091	52.53%
小学校費	91,557	4.14%	67,836	8.29%	71,197	7.99%
中学校費	77,764	3.51%	90,372	11.05%	85,284	9.57%
幼稚園費	20,284	0.92%	19,296	2.36%	18,963	2.13%
社会教育費	145,883	6.59%	196,935	24.07%	171,112	19.20%
保健体育費	44,945	2.03%	48,346	5.91%	76,412	8.58%
計	2,212,559	100.00%	818,025	100.00%	891,059	100.00%

○ 教育費執行率の推移

（千円）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
予算現額	2,309,395	866,778	989,223
決算額	2,212,559	818,025	891,059
執行率	95.8%	94.4%	90.1%

○ 平成29年度 町民1人あたりの教育費

人口(H30.3.31現在)（人）	教育費決算額（千円）	町民1人あたりの教育費（円）
17,080	891,059	52,170

○ 平成29年度 児童生徒1人あたりの教育費(小・中学校費)

（児童生徒数:H29..5.1現在）

	児童(小学校)	生徒(中学校)	計
児童生徒数(人)	757	437	1,194
決 算 額(千円)	71,197	85,284	156,481
1人あたり(円)	94,052	195,158	131,056

4. 主な教育委員会の活動状況について

日　程	件　名	会　場
平成29年 4月 3日（月）	教職員辞令交付式	中央公民館
平成29年 4月 7日（金）	小学校入学式	大洗小学校
		南小学校
平成29年 4月10日（月）	中学校入学式	第一中学校
		南中学校
平成29年 4月11日（火）	幼稚園入園式	祝町幼稚園
平成29年 4月12日（水）	大洗町教育研究会総会	文化センター
平成29年 5月15日（月）	奨学生選考審議委員会	教育センター
平成29年 5月19日（金）	大洗町青少年育成会議総会	中央公民館
平成29年 5月22日（月）	奨学生面接審査会	役場会議室
平成29年 5月26日（金）	関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会	神奈川県
平成29年 5月27日（土）	小学校運動会	大洗小学校
		南小学校
平成29年 5月30日（火）	茨城県市町村教育委員会連合会定期総会及び講演会	水戸市総合教育研究所
平成29年 6月 2日（金）	第46回いきいき体育祭	総合運動公園
平成29年 6月 2日（金）	東茨城郡教育委員会連絡協議会役員会	城里町
平成29年 6月 5日（月）	奨学生承認書授与式	役場会議室
平成29年 6月28日（水）	教育委員学校訪問	大洗小学校
		第一中学校
平成29年 6月29日（金）	第1回教科用図書選定協議会	茨城町
平成29年 6月29日（木）	東茨城郡教育委員会連絡協議会総会及び研修会	城里町
平成29年 7月 6日（木）	第2回教科用図書選定協議会	茨城町
平成29年 8月26日（土） 平成29年 8月27日（日）	第22回石井藤吉郎杯中学校野球大会	総合運動公園
平成29年 8月31日（木）	茨城県市町村教育委員会教育委員研修会	茨城県教育研修センター

日　　程	件　　名	会　　場
平成29年　9月　9日（土）	中学校体育祭	第一中学校
		南中学校
平成29年　9月18日（月）	敬老会	文化センター
平成29年　9月23日（土）	祝町幼稚園運動会	祝町幼稚園
平成29年10月　5日（木）	東茨城郡教育委員会連絡協議会役員会	茨城町役場 駒場庁舎
平成29年10月　8日（日）	大洗町民スポーツフェスティバル2017	総合運動公園
平成29年10月23日（月）	新任教育長及び教育委員並びに新任職員研修会	水戸市総合 教育研究所
平成29年11月　2日（木）	小中連携実践発表会	大洗小学校
		第一中学校
平成29年11月　6日（月）	東茨城郡教育振興大会	茨城町役場 駒場庁舎
平成29年11月　8日（水）	市町村教育委員会研究協議会	つくば国際会議場
平成29年11月　9日（木）		
平成29年11月11日（土）	大洗町民の日記念の集い	文化センター
平成29年11月20日（月）	茨城県市町村教育委員会連合会第1回理事会	水戸市総合 教育研究所
平成29年11月23日（木）	大洗町立南中学校教育実践研究発表会	南中学校
平成29年11月24日（金）	奨学生選考審議委員会	教育センター
平成29年11月29日（水）	教育委員訪問	祝町幼稚園
平成29年12月　3日（日）	第72回　三浜駅伝競走大会	ひたちなか市 大洗町
平成29年12月13日（水）	教育委員学校訪問	南小学校
		南中学校
平成29年12月22日（金）	町教育研究会発表会	文化センター
平成30年　1月　7日（日）	大洗町成人式	文化センター
平成30年　1月18日（木）	大洗町賀詞交換会	大洗 シーサイドホテル
平成30年　1月21日（日）	大洗音楽祭2018	文化センター
平成30年　1月25日（木）	市町村教育委員研究協議会	文部科学省
平成30年　2月　4日（日）	第35回大洗マラソン　サンビーチ・マイルレース	大洗サンビーチ

日　　程	件　　名	会　　場
平成30年　2月13日（火）	大洗町善行賞授与式	文化センター
平成30年　2月23日（金）	茨城県市町村教育委員会連合会第2回理事会	水戸市総合教育研究所
平成30年　3月　4日（日）	生涯学習フェスティバル	文化センター
平成30年　3月13日（火）	中学校卒業式	第一中学校
		南中学校
平成30年　3月16日（金）	祝町幼稚園卒園式	祝町幼稚園
平成30年　3月20日（火）	小学校卒業式	大洗小学校
		南小学校
平成30年　3月30日（金）	教職員定期異動辞令交付式	中央公民館

第３　教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本的方針	No.	事業名	担当課	ページ
豊かな人間性をつちかう教育の推進	1	「みんなにすすめたい一冊の本」事業	学校教育課 学校教育係	15
	2	教育相談体制の充実事業 （教育センター設置事業）	学校教育課 教育センター	17
	3	海っ子山っ子交流事業	生涯学習課 社会教育係	19
	4	生涯学習フェスティバル事業	生涯学習課 社会教育係	21
	5	町民会館自主事業(大洗音楽祭)	生涯学習課 文化振興係	23
	6	友好都市交流展覧会事業 (「池田修三木版画展ー少女・こども・ふるさとー」)	生涯学習課 博物館管理係	25
	7	ミュージアムコンサート	生涯学習課 博物館管理係	27
確かな学力を身に付ける教育の推進	8	学びの姿勢づくり推進事業	学校教育課 指導室	29
	9	小中連携教育推進事業	学校教育課 指導室	31
健康な心と体を育てる教育の推進	10	家庭教育学級	生涯学習課 社会教育係	33
	11	ひぬま夏海マラソン	生涯学習課 スポーツ振興係	35
	12	石井藤吉郎杯中学校野球大会	生涯学習課 スポーツ振興係	37
	13	第74回国民体育大会推進事業	生涯学習課 国体推進室	39
学校・地域・家庭の連携	14	善行青少年ほう賞事業	生涯学習課 社会教育係	41
社会の変化に対応した学習機会の充実	15	埋蔵文化財企画展事業	生涯学習課 文化振興係	43
	16	タブレット授業支援システム整備事業	学校教育課 学校教育係	45
質の高い教育環境の整備	17	大洗町立南小中学校共用体育館建設事業	学校教育課 学校教育係	47
	18	要保護・準要保護児童生徒就学援助事業	学校教育課 学校教育係	49

平成29年度　点検評価シート

No.1

事務事業名	「みんなにすすめたい一冊の本」事業	担当課	学校教育課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	1	豊かな人間性をつちかう教育の推進(徳・・・優しく)
	施策	3	就学前教育・学校教育の充実
根拠法令等	大洗町「みんなにすすめたい一冊の本」推進事業実施要項		

【事務事業の概要】

事業の目的 (何のために)	読書活動は、児童生徒が、言葉を学び、感性を磨き、想像力や表現力を高めるなど、豊かな人間性を育むために重要な役割を果たしている。本事業は、児童生徒の読書意欲を喚起し、小中学校における読書活動の推進を図ることで、児童生徒の国語力の向上と豊かな人間性の育成を目的に実施する。
事業の対象 (誰を・何を)	・大洗町立小学校に通う小学生　約760名 ・大洗町立中学校に通う中学生　約440名
事業の手段 (どんなやり方で)	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他(　　) 茨城県教育委員会主催の「みんなにすすめたい一冊の本」推進事業を通し、児童生徒の読書意欲を喚起し、読書活動の推進を図る。具体的には、対象期間内に読んだ本の冊数に応じて、賞状を授与する。また、茨城県の表彰に加え、町独自の表彰を設け、低学年からの読書習慣の定着を目指している。 ※県教育長賞:年間50冊/小4から、年間30冊/中　県知事賞:3年間300冊/小4から、3年間150冊/中 ※町教育長賞:年間30冊/小1から、年間15冊/中　町長賞:3年間150冊/小1から、3年間100冊/中
事業の成果 (意図する成果)	・豊かな人間性や国語力の育成。 ・読書習慣の定着。

【事業費の推移】

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額(千円)	12千円	12千円	12千円
	決算額(千円)	12千円	12千円	12千円
	内訳 一般財源	12千円	12千円	12千円
	内訳 国県補助金	—	—	—
	内訳 その他	—	—	—
	執行率(%)	100%	100%	100%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	対象児童数	821名	782名	757名
	対象生徒数	440名	434名	437名
	計	1261名	1216名	1194名
成果指標	町教育長賞被表彰割合(小学生、中学生)	65.9%(93.7%、14.3%)	67.4%(93.0%、21.2%)	71.3%(98.4%、24.3%)
	県教育長賞被表彰割合(小学生、中学生)	41.3%(80.5%、2.0%)	42.5%(80.8%、5.3%)	49.8%(95.0%、8.0%)
	町長賞被表彰割合(小学生、中学生)	33.0%(50.7%、0.2%)	40.3%(61.8%、1.6%)	43.7%(67.7%、1.8%)	
	県知事賞被表彰割合(小学生、中学生)	3.7%(7.5%、0.0%)	3.1%(5.9%、0.5%)	6.3%(11.9%、1.1%)
効率指標				

※成果指標は，被表彰人数／対象児童・生徒数

【自己評価】

評価項目	評価結果	
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である　B. 概ね妥当である　C. 妥当でない 本事業では、対象期間に読んだ本の冊数に応じて表彰を行っている。これにより児童生徒の読書意欲を高め、読書活動の推進を図っている。 また、町が実施主体となることで、県の事業では対象外となっている低学年の表彰が可能となり、低学年からの読書習慣の定着につながっていると考えられる。 したがって、本事業の妥当性は高い。
成果 （意図した成果が上がっているか）	B	A. 上がっている　B. 概ね上がっている　C. 上がっていない 成果指標で示した通り、表彰を受ける児童生徒の割合は、概ね増加傾向にある。特に小学生は、いずれの賞においても表彰割合が高く、非常に高い成果を上げている。 一方で、中学生の表彰者の割合は、増加はしているものの低い値となっている。このことから、読む本の量を増やすことだけではなく、読む本の質を向上させる必要があると考える。
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である　B. 概ね効率的である　C. 効率的でない 小中学校での読書には、学校図書館が活用されているため、必要最小限度のコストで事業を実施することができている。そのため、コスト面からみて本事業の効率性は非常に高い。

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
□	現状のまま継続
■	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等
児童生徒の国語力の向上と豊かな人間性の育成のために、今後は読む本の質にも着目する必要がある。特に中学生は小学生に比べ読書量が減少することから、読む本の質の向上が重要になる。県が推薦する図書がまとめられた「読書案内リーフレット」、また図書委員会や教員が選んだ推薦図書の積極的な活用等により、児童生徒の読書活動のさらなる充実を目指す。

【評価委員の意見】

○読書をとおして人格が形成されること、さらには今日求められる読解力養成の点からも非常に重要な事業であり、一定の効果を挙げていることは高く評価できる。
ただし、事業のなかでも指摘されているように、どうしても量で成果をとらえてしまうために、やさしい本を読んで済ますことにもなり、その結果中学校における読書活動に結びつかないということになってしまう危険性も持っている。すでに改善策として述べられているが、読書の楽しさを児童生徒に伝える活動の充実が進むといいのではないかと思う。

○「心の教育」を最初に掲げている本町の教育には、豊かな人間性を培うために読書を生活の中に定着させるこの事業の継続が不可欠である。思考も行動も行きつ戻りつしながら成長している過程で、たくさんの本との出会いだけでなく、それぞれの児童生徒の実態に配慮した出会いへのアドバイスや本から学んだことを表現させていくといった、読書の質に視点を当てて手段を改善していこうとする姿勢を高く評価する。

平成29年度　点検評価シート

No.2

事務事業名	教育相談体制の充実事業(教育センター設置事業)	担当課	教育センター

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	1	豊かな人間性をつちかう教育の推進(徳・・・優しく)
	施策	3	幼児教育・学校教育の充実
根拠法令等	大洗町教育センター設置要綱		

【事務事業の概要】

事業の目的 (何のために)	教育センターに相談員・臨床心理士(随時)を配置し、児童生徒や保護者、教員への相談や支援の充実を図り、それらをとおして、幼児，児童生徒の発達上の課題や学校不適応等の諸問題に対応することを目的としている。
事業の対象 (誰を・何を)	幼児・児童生徒や保護者、教員等
事業の手段 (どんなやり方で)	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他(　　) ①親と子どもの相談室(電話相談・来所相談)及び適応指導教室の開設(「すくすくなぎさ」) ②学校現場から研修生の受け入れ(29年度は無し) ③関係課・機関との連携と、サポートチームによる支援(健康増進課，こども課) ④保護者・関係機関(幼・保育園(所)・小学校・中学校・健康増進課)への啓発 (パンフレット・広報誌等)
事業の成果 (意図する成果)	①悩みや不安等、様々な問題を抱える児童生徒や保護者(幼児保護者を含む)、教員への相談支援体制の充実を図ることができる。 ②適応指導教室での個別対応により、児童生徒のニーズに添った指導助言や生活指導等を図り、再登校につなげていける。 ③相談しやすい環境づくりにより、問題の早期発見、解決に向けた取組につなげていける。 ④関係機関との連携をとおして多面的に改善の取り組みができる。(健康増進課・こども課)

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額(千円)		10,059千円	9,780千円	10,017千円
	決算額(千円)		9,425千円	8,926千円	8,524千円
	内訳	一般財源	9,425千円	8,926千円	8,524千円
		国県補助金	—	—	—
		その他	—	—	—
	執行率(%)		93.70%	91.30%	85.10%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	電話相談の状況(累計件数)	222件	182件	45件
	来所相談の状況(累計件数)	647件	813件	218件
	(再掲:不登校関係)	646件	880件	263件
成果指標	学校への復帰状況	3人/8人	5人/7人	4人/4人
	相談員研修会の実施状況	6回/年	4回/年	4回/年
	教職員等との連絡会議実施状況	5回/年(幼保小中)	10回/年(幼保小中)	5回(小中)
効率指標	相談員の配置状況	8名(2～3日/日)	7名(2～3名/日)	7名/(2～3名/日)
	幼児教育アドバイザー	1名(3名/週)	1名(3日/週)	1名(1日/週)
	研修生	1名	—	—

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		相談は、幼児から中学生までを対象としている。中学生の利用は全体の75%、小学生は25%であった。 小学校入学後の不安から就学前児童保護者の相談もあり、小学校低学年保護者の相談も増えている。 不登校児童生徒一人一人に対する細やかな相談・指導にあたっており、本事業の妥当性は高い。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		教育センターと教育委員会指導室との連携を常に取っていることから、相談業務も連携してあたることができている。 対象児童・生徒に対しては継続的な相談活動により、生徒の生活行動にも大きな変容が見られている。学校の生徒指導担当者との情報交換等も増やすことができた。 今年度は来所していた児童生徒4名が学校に戻ることができた。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		ケースごとに個々の相談員が対応するとともに、必要に応じて関係機関や生徒指導担当教員と情報交換を行い、継続的に支援に当たっている。保護者や学校との連携も密に行なったことが成果へと繋がっており効率性も高い。 (相談員5名は教員経験者、臨床心理を学ぶ大学院生1名)		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○今後、児童生徒や保護者、教員の相談や支援の充実はますます重要になると思われる。その際、やはり気軽に相談できるための連携の在り方を探ることが重要になる。相談に敷居の高さを感じている保護者や教員もいるのではないかと考えられるからである。その意味で、啓発に力をいれていること、相談だけではなく連携に力を入れていることは大切なことであり、高く評価できる。

○学校と教育センターと教育委員会指導室との連携が十分にされていることが、来所者全員の学校復帰という効果に表れていることを高く評価する。また、就学前や小学校低学年の保護者からの相談も増えているということから、地域や保護者の理解が深まり、学校との連携が緊密であることがうかがわれる。様々な要因から発する発達上の課題や学校不適応等の課題を早期に発見し対応していく相談体制がさらに充実されることを期待している。

平成29年度　点検評価シート

No.3

事務事業名	海っ子山っ子交流事業	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	1	豊かな人間性を培う教育の推進
	施策	3	幼児教育・学校教育の充実
根拠法令等			

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	子ども達の健全育成のため、那珂川で結ばれている大洗町と栃木県茂木町とで交流を図り、特色ある地域を使った体験活動を通して、集団生活での協調性や自然を大切にする心を涵養する。引いては、両町の子ども達が自らの故郷を教え合うことにより再発見し、郷土を知りより深く愛する心を育くむものである。
事業の対象 （誰を・何を）	那珂川を介して、中流と下流に位置する自然や生活環境を理解するため、大洗町と茂木町の小学5・6年生を対象に交流事業を行う。
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） 地域の特色を活かした体験活動を（大洗町ではライフセービング等、茂木町ではツインリンクもてぎ内の自然体験等）を実施。また、班別に分かれての夕食作りやテント設営など、日頃経験することのできない体験を通して集団生活のルールや自然の魅力を感じてもらう。
事業の成果 （意図する成果）	事業を通して集団行動の中で協調性や自主性を培い、また、初めての地域・人々の中でどう生きどう行動できるのかを考え体感し、人としての成長と青少年の豊かな心を育む。

【事業費の推移】

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）	744千円	595千円	602千円
	決算額（千円）	542千円	562千円	475千円
	内訳 一般財源	440千円	453千円	371千円
	内訳 国県補助金	—	—	—
	内訳 その他	102千円	110千円	104千円
	執行率（%）	72.8%	94.4%	78.9%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	参加者数	53人	48人	35人
	内大洗町参加者	21人	19人	14人
成果指標	集団生活の認識	認識できた	認識できた	認識できた
	特色のある地域の活用	活用できた	活用できた	活用できた
効率指標	1人当たり単価	10,000円	10,000円	10,000円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		健全育成の面から他者との交流、集団生活、自然体験と普段味わえない体験が参加者にとって、町単独で行う事業に比べ、より効果・効率的に実施でき、得難い学習機会となっているといえるため、妥当である。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		2泊3日間での貴重な体験から、来年もさらに学習したいと次年度も参加する児童が多い。両校の参加児童は、集団生活を通じ協力し合うことの大切さを学び、自然体験からは、海山の自然の雄大さを体感する貴重な学習機会であり、参加動機として好評であることから、今後も地域の特色を主体として事業を展開する。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 上がっている	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		地域のボランティア（高校生会等）や特色ある自然環境や施設において事業を比較的費用を抑えて実施しており、相互の往来についても町の福祉バスを活用することにより、低コストで事業を実施することができる。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○豊かな自然体験や集団生活の経験ができることに加え、両町が交流することによりそれぞれの郷土愛を育むことが可能になる事業であり、高く評価できる。高校生のボランティアを活用していることも大洗の町らしく素敵な試みだと思う。

○那珂川で結ばれていながら山里の町との宿泊を伴った交流は、単に交流や自然体験だけでなく、異なる環境や文化をもつ者同士が、同じ目標や課題に向かい互いに知恵を出し合って解決していく力を育てる素晴らしい事業であると高く評価する。同質の者同士の集団では培えないものであり、どのような変化が来ても自分で対応できる人間、どのような環境の中でも自分自身の生活を切り拓いていける力を育てるよい機会になっている。
　是非、実施日を検討し合って、より多くの子どもたちが参加できるようにお願いしたい。

平成29年度　点検評価シート

No.4

事務事業名	生涯学習フェスティバル事業	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	1	豊かな人間性をつちかう教育の推進(徳・・・優しく)
	施策	1	豊かな心育成(徳育)の推進
根拠法令等	なし		

【事務事業の概要】

事業の目的 (何のために)	公民館講座を始めとする生涯学習活動を実践するグループや団体の皆さんが一堂に会し、自らの1年間の活動の成果を発表するとともに、生涯学習の取り組みを広く町民に伝え、生涯学習への関心を持っていただくことで、公民館を積極的に活用いただき、町民の生きがいづくりの取組みを進める。
事業の対象 (誰を・何を)	公民館等の利用者
事業の手段 (どんなやり方で)	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他(　　) 公民館を中心に活動する公民館講座や自主グループが自らの活動を広く町民の皆様に知っていただくため、毎年3月の第一日曜日に文化センター大ホールや中央公民館を主会場に実施。 体験コーナーや展示コーナー、ステージでの発表など各部門一人ひとりの自主的な参加による手作りのイベントとなっている。
事業の成果 (意図する成果)	あらゆる年齢層の人が、生涯学習や体験活動をとおし、自ら学びその成果を地域に還元できる環境を提供する。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額(千円)		170千円	170千円	170千円
	決算額(千円)		149千円	144千円	169千円
	内訳	一般財源	149千円	144千円	169千円
		国県補助金	―	―	―
		その他	―	―	―
	執行率(%)		87.6%	84.7%	99.4%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	参加団体数	55団体	54団体	54団体
成果指標	来場者延べ人数	1,500人	1,500人	1,400人
効率指標	一人当たりの単価	113円	113円	121円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		広く生涯学習の取り組みを知っていただく機会であり、生涯学習フェスティバルを目標に学習に取り組んでいる団体も多い。 年度末近い3月第一日曜日の1日だけの発表の機会ではあるが、この日を目標に各講座や自主グループにおいて学習のスケジュールを決め取り組まれている。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		手軽に活動に参加できる体験コーナーや普段の公民館活動の成果の発表に触れていただくことは、発表者にとっても来場者にとっても、生涯学習の取り組みを分かりやすく理解していただく上で得がたい機会である。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		大規模な事業ではあるが、公民館講座の受講生や自主グループのメンバーを中心とした参加者が主体的・ボランティア的に取り組んでおり、少ない事業経費で実施できている。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○生涯学習時代において、発表の機会をもつことは学習意欲にもつながり、さらにその発表が自らの学びを地域に還元する機会にもなる事業であり、高く評価できる。参加者が、主体的に運営している点も、経費が抑えられるという理由だけではなく、主体的な地域形成の一端としても重要な意味をもっているように思う。

○この事業は、生涯学習活動を実践する方々にとっては、一年間の活動の総まとめ、確認の機会となっている。見て、触れて、体験できることで、広く町民の方々にその魅力を伝えることもでき、生きがいづくりにもなっている。さらに、参加者が主体的・ボランティア的に企画・運営に取り組んでいることも大洗町の民力の高さをうかがわせ、さらに盛り上げていきたい事業と思う。

平成29年度　点検評価シート

No.5

事務事業名	町民会館自主事業(大洗音楽祭)	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	1	豊かな人間性をつちかう教育の推進(徳・・・優しく)
	施策	4	優れた芸術や文化に触れる機会の設定
根拠法令等	大洗町民会館の設置及び管理に関する条例		

【事務事業の概要】

事業の目的 (何のために)	芸術文化の内、音楽分野の発表会を通して、世代や地域をこえた交流を実現し、音楽の素晴らしさを体感する。
事業の対象 (誰を・何を)	音楽分野に関わる町内児童・生徒、高校生、大人など
事業の手段 (どんなやり方で)	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他(　　) 1月下旬の日曜日、平成29年度は地元大洗町出身に特化した出演者で構成した。小学校金管バンド部・中学校吹奏学部・高等学校マーチングバンド部・声楽・合唱・磯節など，多様な音楽ジャンルの発表やセッション等世代をこえた展開。また、栃木県上三川町や群馬県榛東村などとの地域間交流を図る。
事業の成果 (意図する成果)	次世代を担う児童生徒にとって、大洗町出身で音楽分野で活躍する先輩の技能を肌で感じ、良い影響を受けるサイクルが出来ている。また鑑賞面でも、広く町民の芸術文化に触れる最良の機会として、核となる事業に成長してきている。また、今回は伝統芸能の磯節に関し、大洗小学校内に磯節クラブが誕生したため、本音楽祭でもオープニングアクトを飾ることとなった。

【事業費の推移】

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額(千円)	1,633千円	1,583千円	1,653千円
	決算額(千円)	1,583千円	1,473千円	1,603千円
	内訳 一般財源	1,583千円	1,473千円	1,603千円
	内訳 国県補助金	—	—	—
	内訳 その他	—	—	—
	執行率(%)	96.94%	93.05%	96.98%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	出演者数	300人	300人	400人
成果指標	入場者数	800人	800人	800人
	座席数	800席	800席	800席
効率指標	入館率	100%	100%	100%

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		大洗町及び大洗町教育委員会が実施主体となり、舞台専門業者の知識と経験を活用しながら運営できており、妥当である。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		音楽分野多ジャンルの発表・セッションを通した世代間交流、及び地域間交流は進んでおり、意図した成果は上っている。また、音楽の素晴らしさを体感する機会ともなった。聴衆もほぼ満館の状態であった。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		大洗町出身の出演者の協力により、通常よりも少ない事業費で運営でき、コスト面からみて効率的となっている。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○音楽をとおして世代を超えた交流が成立していること、また児童生徒にとっては地域の先輩たちの音楽活動を目の当たりにすることで刺激を受けていることなど、素敵な事業である。大洗町に関係のある出演者に参加してもらっていることは、事業費の節約のみならず、郷土愛にもつながる事業となっていて、大きな効果をもつ事業といえる。参加人数も多く、すばらしい事業である。

○各方面からたくさんの方々の協力を頂き，内容、構成全てにユニークで素晴らしい事業が展開されたことを高く評価する。特に、次世代を担う青少年たちにとって、我が町の先輩が輝きながらその道を進む姿に、誇らしさと自分の夢を胸にする機会になったと考える。こうした世代や地域を越えた交流による感動は、必ず将来の大洗を輝かす原動力となると思う。

平成29年度　点検評価シート

No.6

事務事業名	友好都市交流展覧会事業 （「池田修三木版画展－少女・こども・ふるさと－」）	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画 施策の体系	基本的方向	1	豊かな人間性をつちかう教育の推進（徳・・・優しく）
	施策	4	優れた芸術や文化に触れる機会の設定
根拠法令等	博物館法、大洗町幕末と明治の博物館条例		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	木版画家池田修三やその作品を紹介することで大洗町と友好都市協定を締結している秋田県にかほ市と文化面での交流を深めると共に、博物館の認知度を高め、入館者増につなげる。
事業の対象 （誰を・何を）	観光客、地域住民
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） ・池田修三の版画作品（子どもと花をモチーフにした作品、子どもたちの情景を描いた作品、風景作品）や版木、版画制作道具等の展示 ・池田修三作品と地元との関係などを紹介した秋田県が製作したPV「秋田のたからもの木版画家池田修三」の放映 ・にかほ市象潟郷土資料館館長を講師に招いた講演会の開催
事業の成果 （意図する成果）	・多くの地域住民が大洗町にいながら友好都市の文化に触れることができる。 ・優れた芸術性の高い作品を鑑賞する機会を提供することができる。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		1,204千円	279千円	3,454千円
	決算額（千円）		910千円	279千円	2,739千円
	内訳	一般財源	－	279千円	2,739千円
		国県補助金	910千円	－	－
		その他	－	－	－
	執行率（%）		75.6%	100.0%	79.2%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	会期日数	39日間	39日間	39日間
	関連講演会	2回	－	1回
成果指標	会期中の入館者数（全体）	2,434人	2,232人	3,190人
	うち町民の入館者数	169人	224人	359人
	うち町民の小中学生の入場者数	32人	16人	22人
	会期中1日あたりの入場者数	62.4人	57.2人	81.7人
効率指標	来館者1人当たりの経費	374円	125円	858円

【自己評価】

評価項目		評価結果
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である　B. 概ね妥当である　C. 妥当でない 友好都市であるにかほ市出身の木版画家池田修三を採り上げることで、友好都市やその文化についても紹介することができた。
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている　B. 概ね上がっている　C. 上がっていない 全国的にも著名であり、友好都市の話題性のある作家であることから、地域住民の入館者も過去最高数であり、全体の入館者数も3,000人を上回った。
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である　B. 概ね効率的である　C. 効率的でない にかほ市との距離や交通事情などにより作品の資料調査や借用に時間や経費が嵩んだが、にかほ市側の協力もあり、必要最低限の支出に抑えることができた。

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
□	現状のまま継続
■	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等
平成30（2018）年は、明治改元から150年の節目の年に当たるため、明治維新150年記念展覧会として「水戸と明治維新の先人たち」を開催する。水戸は明治維新の原動力ともなる思想が生まれた地であり、水戸の志士や学者たちの業績や著作物、事件などを紹介する。

【評価委員の意見】

○博物館で行われた美術展であり、また友好都市である秋田県にかほ市との交流展覧会であり、意味のある展覧会事業である。今回は、遠方からの作品の運搬費がかさんだということだが、今回については、それでよかったように思う。全体の入館者数だけではなく、町民の入館者も増えており、今後は、この傾向をさらに強めるような工夫をしていただけるといいかなと感じた。
いつも思うことだが、小中学生の来館者が増える工夫、学校教育との連携は難しいのだろうか。

○友好都市協定を締結している秋田県にかほ市出身の版画家の作品展は、3，000人を上回る入館者数に表されているように、町内外に幕末と明治の博物館は茨城県の初代美術館であったことの認知度を高めたと評価する。入館路も人目を引く工夫がなされ、広報方法が効果的であったと考える。
平成30年度の「明治維新150年記念展覧会」の開催にも期待する。

平成29年度　点検評価シート

No.7

事務事業名	ミュージアムコンサート	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	1	豊かな人間性をつちかう教育の推進（徳・・・優しく）
	施策	4	優れた芸術や文化に触れる機会の設定
根拠法令等	博物館法、大洗町幕末と明治の博物館条例		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	博物館に気軽に訪れる機会や環境を提供し、にぎわいのある博物館活動を推進する。
事業の対象 （誰を・何を）	地域住民
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） ・東京労音ギター文化館の協力を得て、演奏者を招き、博物館新館ホールにてコンサートを開催する。 ・演奏曲は、多くの参加者がよく知っている曲も含めることで、参加者の興味をひきつける構成とする。
事業の成果 （意図する成果）	・コンサートを契機として、博物館活動への関心を高めることができる。 ・本格的な音響施設ではないが、新館ホールでコンサートを開催することでホールの有効活用につながっており、また、結果的に本格施設に近い音響環境を利用することができる。

【事業費の推移】

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）	－	320千円	330千円
	決算額（千円）	－	290千円	330千円
	内訳 一般財源	－	290千円	－
	内訳 国県補助金	－	－	－
	内訳 その他	－	－	330千円
	執行率（%）	－	90.6%	100%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	演奏者数	－	2人	3人
	演奏曲数	－	18曲	15曲
成果指標	参加者数	－	140人	157人
	うち町内の参加者数	－	71人	57人
	満足度（良かった、大変良かった	－	99%	100%
効率指標	参加者1人当たりの経費	－	2,071円	2,101円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		博物館内をコンサート会場としていることで、博物館に来館してもらうことができ、博物館活動に対する認知度を高めることができている。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		コンサートをきっかけとして初めて博物館を訪れた参加者もおり、普段は博物館活動に関心の低い層にも興味関心を持ってもらうための一助となっている。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		他所では3,000～8,000円程度のコンサート料金が必要であるが、本格的な音響施設ではないことや啓発普及事業であることを鑑み、予約制とはしているが、参加費は無料としている。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○博物館をコンサート会場にしていることによって博物館にも関心をもってもらおうとする事業であり、二つの意味をもった事業として高く評価できる。また音楽の啓発事業として、無料で実施していることもすばらしいことだと思う。今後も、無料を続けることはできないにしても、安い料金で音楽に親しむことができることで、大洗町が豊かな音楽の町になっていくきっかけになるのではないかと思う。

○博物館のにぎわいを推進する事業としてのギターコンサートは評価できる。このようなコンサートを継続することによって、博物館活動に対する認知度を高めるだけでなく、大洗町の文化の質を高めることも期待できる。そのためにも、町内への広報を工夫していただきたい。

平成29年度　点検評価シート

No.8

事務事業名	学びの姿勢づくり推進事業	担当課	指導室

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	2	確かな学力を身に付ける教育の推進(知・・・賢く)
	施策	1	確かな学力の育成
根拠法令等			

【事務事業の概要】

事業の目的 (何のために)	○一人一人に応じた細やかな学習支援による知識・理解の着実な定着 ○自ら学ぼうとする意欲の向上 ○家庭学習の習慣化
事業の対象 (誰を・何を)	・大洗町立小学校に通う小学生　4・5・6年生 ・大洗町立中学校に通う中学生
事業の手段 (どんなやり方で)	〈実施・運営方法〉　■ 町　□委託　□補助金　□その他(　　) 本事業は小学生に対する「夏休みチャレンジ教室」と、中学3年生に対する「放課後チャレンジ教室」、中学1・2年生に対する「チャレンジ教室Ⅱ(中学校版)」の3つの事業で構成されている。 「夏休みチャレンジ教室」は、夏休み10日間、小学4・5年生(5日間全員・5日間希望制)、6年生(10日間希望制)を対象として、学習サポーターを配置し、各学校において自主学習の機会を提供した。 「放課後チャレンジ教室」は、中学3年生に対し、10月から3月上旬までの期間に、授業日は2時間程度、冬休みは3時間程度、受験勉強対策を中心に自主学習の機会を提供した。併せて進路指導対策と学力向上を図った。 「チャレンジ教室Ⅱ(中学校版)」では、年間40時間サポーターを配置できる予算立てを行い、各校の計画に沿って生徒に対し、自主学習の機会を提供した。 児童生徒は、自分で学習教材を準備(小学4・5年生は県作成の算数の学習テキストあり)し、自己の学習計画に沿って学習を進め、分からないこと等を学習サポーターに質問して助言・指導をもらい、自主学習の充実を図ってきた。
事業の成果 (意図する成果)	【小学生への成果】 児童は自分のペースで問題に取り組み、自力での解決が困難な時はサポーターの力を借りながら解決することができるので、児童は充実感を味わいながら学習を進めることができた。10日間の平均参加率は、小学4年生70%、5年生74%、6年生44%であった。学習意欲の向上とともに、自主学習の習慣化に繋がっている。 【中学生への成果】 放課後、大洗塾で学習して自宅へ帰ることによって学習の繋がりができ、帰宅後の家庭学習に容易に取り組むことができるようになった。希望者数は在籍生徒の約9割となり、平均参加率は希望者の約6割であった。放課後に同級生と学習することで、一緒に高校入試に向かう仲間として切磋琢磨し意欲的に学習するとともに、初めての高校入試に対する不安を和らげる効果も大であった。チャレンジ教室Ⅱでは、計画的に学習する機会を提供することで、基礎基本の定着に繋がっている。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額(千円)		3,447千円	3,329千円	3,064千円
	決算額(千円)		1,693千円	2,328千円	2,631千円
	内訳	一般財源	1,543千円	2,136千円	1,819千円
		国県補助金	150千円	192千円	812千円
		その他	—	—	—
	執行率(%)		49.1%	69.9%	85.9%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	対象児童生徒数	599人	854人	841人
	参加児童生徒数	433人	640人	592人
成果指標	小学生の参加率	72%	86%	78%
	中学生の参加率	73%	96%	96%
	中3生で2時間以上家庭学習する割合	23%	30%	19%
効率指標	決算額／参加児童生徒数	3,910円	3,638円	4,444円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		算数科の学習では、小学校4年生頃から学習の遅進が現れ始める。本事業では、小学1年生から小学校4年生までに学習した四則計算を中心とした知識・技能に関する問題を復習することを通して、児童一人一人がつまずいている所に戻って再度学習し、理解を確かなものとすることができる。その結果、つまずきの連鎖を防ぐことにも繋がっている。学級担任に加えて学習サポーターが指導に当たることのできるこの事業は、きめ細やかな指導が可能となり、つまずきの早期発見・早期解消に繋がっている。また、中学3年生での実施は、学習サポーター、教科専門教員から適切な支援があることに加え、学校に学習する環境があることで、スムーズに学習意欲の向上と学習習慣の定着に繋がっている。知識・理解の着実な定着、学習意欲の向上の両面から、本事業は妥当であると考える。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		ここ3年間の小学校の参加率はほぼ変化がなく、意欲的に自主学習に取り組み、この事業が定着してきていることが感じられる。家庭にいてだらだらと時間を過ごしてしまうよりも、午前中は学校へ行き、学習サポーターのいる下で自学習した方が有益であることが浸透していることが伺える。しかし、6年生の参加率が低くなっており、町行事等との兼ね合いもあるため実施日等の検討が必要である。一方、H28から1・2年生に対して「チャレンジ教室Ⅱ」（中学校版）」をスタートし、小学4年生から中学3年生までの切れ目のない、学びの姿勢づくり事業が整った。中学校においては、1・2年生は全員参加、中学3年生の場合は、参加希望者が9割を超えるようになり、学習サポーターと教員の適切な支援を受けて充実した学習が行われている。学びの姿勢づくりという点から見ると、学習する機会が多く提供されていることは、児童生徒にとってたいへん望ましく、学習が身近にあり学習することの習慣化に繋がっていると言える。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		茨城県教育委員会が実施している「学びの広場サポートプラン事業補助金」および平成29年度からは「地域の教育支援体制等構築事業費補助金」も活用することにより、予算面での効率化を図っている。 学習サポーターの配置においては、町採用の非常勤講師を主に配置することにより、非常勤講師の指導力の向上にも繋がっている。また、町非常勤講師は日頃から児童生徒と接しているため、一人一人の実態をおおよそ把握できており、個別指導を行う上でたいへん効率的である。一人一人の性格や学習上の遅進の状況、理解の早さなどを指導者が捉えているので、児童生徒たちも安心して学習に取り組むことができる。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案，廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○子どもたちの身近に学習を支援してくれる大人がいるということは重要な意味をもっており、高く評価できる。大洗町採用の非常勤講師を配置して、細やかな指導を行っていることは、学習意欲の向上にも寄与するのではないかと思う。参加率も高く、小さな町らしい対応ができているように思う。

○過日、文部科学省の調査で、高校1年生の25．4%が平日に自宅や学校外で勉強しないと答えているという報道があった。家庭における自分のための自主学習の習慣づけと学力向上等を図れる本事業は、重要かつ有効である。学習サポーターに児童生徒をよく知る町採用の非常勤講師を採用していることは、一人一人の実態に即したきめ細やかな援助が期待できる。

平成29年度　点検評価シート

No.9

事務事業名	小中連携教育推進事業	担当課	指導室

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	2	確かな学力の習得と活用する力の育成
	施策	5	小中連携教育の推進
根拠法令等	平成29年度学校教育指導方針　地域とともにある学校づくりの推進　地域学校間の相互連携と協働		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	各教科等、小・中学校間の連携を図り、系統的、発展的な指導を明確にした指導の改善のため
事業の対象 （誰を・何を）	大洗町内小中学生
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） ・兼務発令により、小小、小中学校間で相互乗り入れ授業を実施している。 ・小中学校の相互授業参観、合同研修会を実施している。 ・大洗小・第一中連携実践発表会及び南小・南中連携実践研究発表会を活動や授業を公開している。
事業の成果 （意図する成果）	・学び・生活・ふれあいをつなげる教育の推進 体育大好き推進事業、兼務発令による教科・日本語指導、食育指導等の専門性がある指導 ・授業・行事等での交流の推進 小中4校が大洗音楽祭に参加。小中合同演奏会、中学生の小学生への陸上記録会練習支援 ・教職員の相互理解の促進 相互授業参観、合同研修会、中学校部活動への小学校教員参加

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		—	—	—
	決算額（千円）		—	—	—
	内訳	一般財源	—	—	—
		国県補助金	—	—	—
		その他	—	—	—
	執行率（%）		—	—	—

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	兼務発令教員数	9人	9人	10人
	大洗小・第一中合同研修会数	—	2回	2回
	南小・南中合同研修会数	3回	3回	3回
成果指標	欠席30日以上小学児童数	6人	8人	8人
	欠席30日以上中学生徒数	29人	18人	15人
効率指標				

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		児童生徒にとって小中の接続が円滑になる。多様な教職員及び児童生徒と関わる機会を増やすことで、小学生の中学校進学に対する不安感の軽減化に効果がある。また、教職員間に同じ義務教育段階の役目であるという認識や、管理職のリーダーシップの発揮の場と、小中教職員間の一体感がもてる事業となっている。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		小中の合同研修によって授業の連続性が確立されている。また，兼務発令によって小中教員が連携し，児童生徒に対して教師の専門性が生かされた教育が実現できている。欠席30日以上の小学校児童は，ほぼ横ばいでとなっているが，欠席30日以上の中学校生徒は減少傾向にあり，中1ギャップについての成果をあげている。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	—	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		—		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○小中学校の児童生徒及び教員の交流は、相互に身近に感じることにより、学校への親近感を育むことに友好であると同時に、小中学校の教師が合同（ワークショップ型研修）で学びあうことにより、どうしてもそれぞれの学校が纏ってしまう固定観念を超えていくことが可能になるのではないかと思われ、非常に高く評価できる。小中連携は、下手をすると形骸化した連携になってしまう危険性をもっているが、大洗町が小さな町であることにより、実質的な連携ができるのではないかとも思う。実際に中1ギャップに効果も挙げているようである。

○進学した中学校に自分をわかってくれている先生、本音を語れる先生がいることは、中1ギャップの解消に大変効果がある。また、授業の相互乗り入れは、小学校において専門性のある授業により教育の質の向上も図れる。兼務の発令や小中合同の授業研究などは大洗町だからこそできる事業と考える。是非継続して「大海原のような洋々たる自己の未来を拓く」子を育てて欲しい。

平成29年度　点検評価シート

No.10

事務事業名	家庭教育学級	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	3	健康な心と体を育てる教育の推進（体・情・・・たくましく）
	施策	2	地域における青少年健全育成活動の推進
根拠法令等	教育基本法第10条		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	家庭教育を支援するための施策を推進し、保護者が親として成長すること及び子どもが親になるために学ぶことを促すとともに、生活のために必要な習慣の確立、自立心の育成及び心身の調和の取れた発達に寄与することを目的とする。
事業の対象 （誰を・何を）	保育園、幼稚園、小学校、中学校に通う児童の保護者や地域住民など
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　□ 町　□ 委託　■ 補助金　□その他（　　） 【H29のテーマ：家庭の教育力を高めよう】 親が子どもの心身の発達上の課題などを学び、親の役割や家庭のあり方を再確認するなど家庭教育に関する学習の機会を持つ場として、保育園、幼稚園、小学校、中学校で計8箇所の学級が開設され活動している。学級長を中心に、家庭教育学級担当の先生の助言をいただき、家庭教育学級生が子どもたちのために保護者全員が考える時間を共有することができるよう大洗町教育委員会や学校等が支援している。 【主な取り組み内容】 ①子どもの身体の発達や病気について ・救命救急の講話と実習、AEDの使い方。歯についての講話と歯磨き指導。 ②子どもの食生活を考える ・講演会「からだづくりと栄養～大事な朝食を摂ろう～」 ③子どもの本当の気持ちをくみとる ・講話「子どものことを考える時間」 ④親子ともに心豊かになる ・講演会「家庭の教育力を高めよう～子どもの心にふるさとを～」 【茨城県水戸生涯学習センター連携事業】 町主催の家庭教育に多くの保護者に参加していただくためのモデル事業を実施した。 ①家庭教育に関する講話・ワークショップの実施 ・北海道洋上体験学習保護者説明会（約130名対象）に併せて実施する。 ②鍛金アクセサリー作り ・参加者同士でコミュニケーションを図りながら『世界に1つだけのアクセサリー』を作成。他者の作品を見ながら1人ひとりの違いを認め合い、受入れ合うことの大切さを学ぶ。 ③子どものとのコミュニケーション方法を学ぶ ・スクールカウンセラーを講師に招きし、参加した保護者が童心に返って遊び、その中から「失敗してもいいんだ」「失敗したらやり直せばいいんだ」ということを学んだ。 ④野外炊爨やプロジェクトアドベンチャー ・初対面同士でも打ち溶け合えるゲームや野外炊爨を通じて親子のコミュニケーション力を高めることを目的として実施。
事業の成果 （意図する成果）	子どものよりよい成長を図ること、子どもと共に伸びる親となるためにはどうしたらよいかの2つに視点をもって、子どもの心身の理解、子育てに関するもの、家庭生活に関するもの、しつけ、道徳に関するものなど多角的に取組みが行なわれている。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		160千円	160千円	160千円
	決算額（千円）		160千円	160千円	160千円
	内訳	一般財源	160千円	160千円	160千円
		国県補助金	－	－	－
		その他	－	－	－
	執行率（%）		100%	100%	100%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	家庭教育学級数	8	8	8

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		家庭は子どもにとって安らぎの場であると同時に、他人への思いやり、正義感、マナーなど、社会生活の中で必要となる能力を育む場であり、全ての教育の出発点である。家庭教育学級は、改めて家庭が本来果たすべき役割を見つめ直す機会となるよう、子どもの発達段階に応じて家庭教育の意義と役割を親自身が学習するものであることから、妥当性は非常に高い。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		親が子どもの心身の発達上の課題などを学び、親の役割や家庭のあり方を再確認するなど家庭教育に関する学習の機会を持つ場となることから有効性は非常に高い。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		各家庭教育学級に対して、年間活動費として20，000円を補助している。学級長を中心に家庭教育に関する講演会や親子で参加できるイベントを開催するなど、子ども達のために保護者が考える時間を共有することができていることから効率性は非常に高い。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○地域が失われつつある時代状況のなかで家庭が孤立する傾向が強くなっているが、大洗町はその小ささを生かして家庭が地域に守られていることを実感できる町であることが大切で、その意味で家庭教育学級事業は高く評価できる。

○家庭は、子ども達が成長していく基盤である。親自身が親の役割や家庭のあり方を学び、見つめ直すことは、家庭力が低下している今、心身ともに健やかな子ども達の成長に大変重要なことである。保護者の学びの場として、茨城県水戸生涯学習センター連携事業を活用してのモデル事業を実施したことは、より多くの保護者を参加させるためにも大変有効であると考える。子ども達に、何を選択し何を優先するかといった価値観やよりよい行動様式を習得させるためにも、この事業をさらに充実させていっていただきたい。

平成29年度　点検評価シート

No.11

事務事業名	ひぬま夏海マラソン	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	3	健康な心と体を育てる教育の推進(体・情・・・たくましく)
	施策	2	体力の向上と学校体育活動の推進
根拠法令等			

【事務事業の概要】

事業の目的 (何のために)	平成27年5月に国際的に重要な湿地として、涸沼が「ラムサール条約」に登録されたことに伴い、マラソンを通し、なお一層の涸沼のPRと環境保全、さらには大洗町夏海地区のコースを走ることで地域の活性化を図っていくことを目的とする。
事業の対象 (誰を・何を)	男子(高校生～39歳)(40歳代)(50歳代)(60歳以上) 女子(高校生～39歳)(40歳代)(50歳代)(60歳以上)
事業の手段 (どんなやり方で)	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　■その他(ひぬま夏海マラソン実行委員会)(夢タウン大洗スポーツクラブ) 大洗総合運動公園をスタート、ゴールとし、夏海地区の宿並から広浦干拓、松川地区と大洗町夏海地区を走る10kmコースで交通規制をかけ、男子の部4部門、女子の部4部門の計8部門を設定しマラソン競技を行った。 参加者の募集については、町ホームページや広報誌のほか、新聞等にも掲載を依頼した。 役場職員・スポーツ推進委員・体育協会会員等、ボランティアスタッフの協力により係員を配置した。
事業の成果 (意図する成果)	暑い時期の大会で、アップダウンのある厳しいコースであるが、沿道の声援が励みになったとの声も多数寄せられており、参加者と夏海地域の方々が一体となり、この大会が盛り上がっている。参加者からは、また、この大会に参加したいとの声も多数あり、涸沼のPR並びに大洗夏海地区の活性化に高い効果がある。今回、385名のエントリーがあった中で、356名が当日参加し、92．5%という高い参加率であった。

【事業費の推移】

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額(千円)	—	—	—
	決算額(千円)	—	—	—
	内訳 一般財源	—	—	—
	内訳 国県補助金	—	—	—
	内訳 その他	—	—	—
	執行率(%)	—	—	—

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	参加申込者数	—	—	385名
成果指標	男子当日参加者数	—	—	290名
	女子当日参加者数	—	—	66名
効率指標	参加費(一般)	—	—	2,500円
	参加費(高校生)	—	—	2,000円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		スポーツ振興を図りながら、涸沼のPR、地域の活性化につながる事業として、夢タウン大洗スポーツクラブが主となり、ひぬま夏海マラソン実行委員会を立ち上げ、町も協力して取り組んでいる。大洗町夏海地区を走るコースは、アップダウンが多いが参加者は楽しみながら走ることができている。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		平成29年7月23日（日）を、第1回大会として開催し、参加者からは、地域の方々の声援に励まされ、温かさを感じられる良い大会との高評価を得ており、また参加したいとの声が多数寄せられている。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		メインスポンサーの㈱伊藤園をはじめ、多くの企業等より協賛を頂いており、また、役場職員をはじめ、スポーツ推進委員や体育協会会員、その他ボランティアスタッフの協力によって、低予算での運営が可能となっている。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
□	現状のまま継続
■	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等
参加者及びスタッフの意見を集約し、反省点や改善点を踏まえながら検討していき、規模拡大等を図り、更に良い大会になるよう、継続して取り組んで行く。また、平成29年度は結果的に当日は涼しく、体調を悪くするランナーも少なかったが、開催時期を見直して実施していく。

【評価委員の意見】

○涸沼のPRと地域の活性化、さらにはスポーツ振興にもなる事業として高く評価できる。平成30年度は開催日をずらして実施し、さらに多くの参加者があったということで、さらなる工夫をしつつ継続していただけたらと思う。

○国内希少野生動植物種に指定されているオオセッカが生息できる貴重な自然環境を備えている涸沼、夏海地区で、その開催趣旨を理解するマラソンランナー385名と、地域の方々やスポーツ推進委員等たくさんのスタッフの協力を得て実施されたことは、ラムサール条約登録のPRと地域振興の両面から高く評価できる。次回は開催時期を検討し、大会趣旨に賛同する参加者やスタッフが増え大会が定着することを期待している。

平成29年度　点検評価シート

No.12

事務事業名	石井藤吉郎杯中学校野球大会	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	3	健康な心と体を育てる教育の推進（体・情・・・たくましく）
	施策	2	体力の向上と学校体育活動の推進
根拠法令等			

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	郷土の生んだ偉大なる野球人である石井藤吉郎氏の功績をたたえ青少年に夢と希望を与える野球大会を開催し、野球を通して中学生の体力・技能の向上、並びに心身共に健康な人づくりに寄与することを目的とする。
事業の対象 （誰を・何を）	中学生
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） 8月に大洗近郊の中学校12校（1、2年生チーム）を招いてトーナメント方式で、野球大会を開催した。主催は、大洗町・大洗町教育委員会で、共催に大洗町体育協会、その他,大洗ロータリークラブや大洗野球連盟に協力を頂き大会運営を行っている。
事業の成果 （意図する成果）	石井藤吉郎氏の球歴及びその功績を青少年に広く伝えることができた。また、試合経験の浅い1、2年生の貴重な実戦経験の場となり、選手自身の成長とチーム力の向上が図られたと共に、近隣中学校間の交流を図ることができた。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		505千円	515千円	515千円
	決算額（千円）		485千円	490千円	496千円
	内訳	一般財源	485千円	490千円	496千円
		国県補助金	－	－	－
		その他	－	－	－
	執行率（%）		96.0%	95.1%	96.3%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	参加チーム数	12チーム	9チーム	12チーム
成果指標	優勝校	美野里中	大洗一中	大洗南中
	大洗一中成績	準優勝	優勝	3位
	大洗南中成績	初戦敗退	初戦敗退	優勝
効率指標	決算額/中学校参加人数	2,487円	3,006円	2,583円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		夏休み期間中恒例の大会として定着しており、入場行進や開閉会式を実施している。また、大洗野球連盟審判員による試合進行など質の高い大会運営が行えており、妥当性は非常に高い。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		1、2年生のチームを結成して間もない時期であり、参加チームのモチベーションも高く緊迫した試合を行っている。この大会を通し選手個人のプレーの質の向上及びチームとして成り立っていく様子が見受けられ、心身共に成長する姿がみられるため有効性は非常に高い。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		大洗ロータリークラブからも協賛を頂いて運営できていることもあるが、大洗総合運動公園野球場及び多目的広場を会場に、審判派遣など協力が得られるため、費用の負担は抑えられており、効率性は高いと言える。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○郷土の生んだ野球人である石井藤吉郎氏の経歴をプログラムに載せ郷土への愛着を育むことと同時にスポーツ（野球）をとおした体力づくりを実現する事業であり、高く評価できる。このままのかたちで継続していただけたらと思う。

○長い歴史を刻む事業であるが、参加する学校や選手にとっては新たな意気込みをもって毎年待ち望んでいる貴重な大会である。また、郷土の偉人の功績を我が町だけでなく、広く周辺の市町村に伝えるためにもこの事業は重要である。

平成29年度 点検評価シート

No.13

事務事業名	第74回国民体育大会推進事業	担当課	国体推進室

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	3	健康な心と体を育てる教育の推進(体・情・・・たくましく)
	施策	2	体力の向上と学校教育活動の推進
根拠法令等	スポーツ基本法(平成23年8月24日施行)第26条(国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会)		

【事務事業の概要】

事業の目的 (何のために)	2019年9月に開幕する「第74回国民体育大会・いきいき茨城ゆめ国体」の大洗町開催競技について準備を進める。
事業の対象 (誰を・何を)	各種関係機関・団体及び全町民
事業の手段 (どんなやり方で)	〈実施・運営方法〉 ■ 町 □ 委託 □ 補助金 ■その他(実行委員会) ・町、議会、各種機関・団体等の参画による実行委員会を組織して事業を推進する。また、実行委員会内に運営委員会を設置して計画・要項など具体的な検討を行う。 ・役場内に庁内推進本部を組織して、実質的な運営について推進する。 ・茨城県や競技団体と十分に連携・調整を行い、円滑な運営が図れるよう取り組む。 ・先催県への視察や近隣市町村との情報交換を通して、調査・研究を進める。 ・花いっぱい運動や町内掲示物(のぼり旗、横断幕等)の設置、各種イベント等への参加、SNSの活用などを行い広報PRを推進し、町民に対しても、おもてなしや参加意識の向上を図り、大会機運の醸成に努める。
事業の成果 (意図する成果)	・大洗町開催競技を円滑に実施運営する。 ・全国から来県、来町される、選手や関係者をはじめとするたくさんの方々をおもてなしの心で温かくお迎えし、大洗町の魅力を感じていただくとともに、町民にも様々な形で大会に参加していただき、思い出に残る大会とする。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額(千円)		—	3,594千円	24,927千円
	決算額(千円)		—	3,289千円	23,570千円
	内訳	一般財源	—	3,289千円	23,570千円
		国県補助金	—	—	—
		その他	—	—	—
	執行率(%)		—	91.5%	94.6%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	実行委員会総会の開催	—	2月3日	6月19日
	各専門委員会の開催	—	—	各2回(11月、2月)
	庁内推進本部会議の開催	—	—	12月20日
成果指標	花いっぱい運動 花苗の配付団体数	—	—	15団体
	マスコットキャラクター・いばラッキーの活用	—	1回	16回
	SNS(Facebook)への投稿回数	—	—	102回
効率指標				

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		各種関係機関・団体及び町職員で組織される4つの専門委員会（総務企画、競技式典、宿泊衛生、輸送交通）において、各計画・要項等について審議した。 先催県への視察を行うとともに、資料や各種情報の提供を受け調査研究に努めた。 茨城県及び競技団体等との連携を密にし、円滑な事業推進に努めた。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		ビーチバレー競技会場の整備を行い、より良い環境でプレーできるようになった。 花いっぱい運動による花苗の生育を町内花壇整備団体や小中学校にお願いして展開することなどで、町民の参加意識の向上が図られた。 各小中学校においても国体ダンスを推進するなど、機運の高まりが感じられる。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		町から実行委員会への負担金の主な使途は、広報PR費用と視察による調査研究費である。広報PRについては、町内に掲示物の設置や啓発品の作成のほか、コストがかからずPRできるSNSなども活用して、効果的に展開している。また、先催県への視察は、実際の開催状況の調査研究が行える機会として、また、貴重な情報提供を受けるためにも、きわめて重要である。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
□	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
■	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等
・2019年の国体開催に向けて、2018年にはリハーサル大会が実施されるなど、円滑な競技運営に対して県や競技団体をはじめとする関係機関とのこれまで以上の連携・調整などが必要になってくる。 ・各種イベントへの参加や掲示物・啓発品の作成などによるPR活動の強化を図る。また、花いっぱい運動や各小中学校による「都道府県応援手作りのぼり旗」の作成など町民参加の意識向上に努め、おもてなしの心で来町者を迎えるとともに、町民にとっても思い出に残る大会となるよう事業を推進する。

【評価委員の意見】

○2019年度の茨城国体に向けてさらに盛り上げていただけたらと思う。この機会に、大洗町ならではの細やかな「おもてなし」の工夫をし、町民の参加意識を高めてもらえたらいいのではないかと思う。

○開催準備として花いっぱい運動が展開され、沿道に花が飾られ要所要所にのぼり旗が翻り、国体への関心を高めることに効果を上げていと考える。
しかし、私もおもてなしに参加していこうといった住民の自主的・積極的な盛り上がりは十分でないように感じる。参加者も来町者も町民も，来て良かった来ていただいて良かったと思える事業の推進に期待してる。

平成29年度　点検評価シート

No.14

事務事業名	善行青少年ほう賞事業	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	4	学校・家庭・地域の連携
	施策	3	地域における青少年健全育成活動の推進
根拠法令等	大洗町青少年のよい行いをたたえる規則		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	学校や地域で日頃から善行、奉仕活動を積み重ねている児童生徒に光をあて表彰し、善意や親切心を伸ばし、人を思いやる心をもつ、地域の未来を背負う青少年を育成する。
事業の対象 （誰を・何を）	青少年≪小学生から18歳未満（高校卒業時まで含む）≫
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） 小中学校長、高等学校長、警察署長及び公共的団体の長などに、日頃から善行に努めている児童生徒の推薦について依頼し、推薦された児童生徒を教育委員会で審査し、町長が善行青少年を決定する。
事業の成果 （意図する成果）	地域社会に貢献する行い、青少年の「善い行い」を積極的に取り上げ、これを褒め称えることにより、善行が報われる喜びが将来への糧となればとの願いを込めており、青少年健全育成活動の一助となっている。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		74千円	74千円	74千円
	決算額（千円）		61千円	25千円	49千円
	内訳	一般財源	61千円	25千円	49千円
		国県補助金	—	—	—
		その他	—	—	—
	執行率（%）		82.4%	33.7%	66.2%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	推薦（個人）	23名	7名	18名
	推薦（団体）	2団体	5団体	4団体
成果指標	善行賞（個人）	23名	7名	16名
	感謝状（団体）	2団体	5団体	3団体
効率指標	1人当たり（決算額/個人・団体）	2，440円	2，083円	2，578円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		学校内での善い行い以外にも、学校外での善い行いも見受けられるので、地域で善い行いをしている児童生徒を見かけたら学校に連絡していただくようお願いしている。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		善行賞の授与は、児童生徒のそれまでの生活や行動における努力の成果を認めるものであり、青少年の健全育成に繋がっている。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		個人には賞状と記念品（図書券500円）を贈り、団体には賞状を贈っている。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○地域社会が温かな町であり続けるためにも、非常に重要な事業だと思う。もちろん、大きな善行も大切だが、小さな善行に溢れる町になるために、その表彰の仕方などさらに工夫していただけたらと思う。

○学校内外での小さな、温かい善い行いが認められ讃えられることは、自尊感情を高め健やかな発達に寄与すると考える。また、この事業は、負の行動ではなく、よい言動を見つけていこうとする、児童生徒自身、保護者、地域住民が視野を広げて温かな目で見守ろうとする心も育てる。そして、保護者の子育ての自信にもつながるので是非継続していきたい。

平成29年度　点検評価シート

No.15

事務事業名	埋蔵文化財企画展事業	担当課	生涯学習課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	5	社会の変化に対応した教育の充実
	施策	3	伝統や文化を尊重し国際性を育む教育の推進
根拠法令等	文化財保護法、大洗町文化財保護条例		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	郷土の理解を深め、地域の活性化を図ることを目的とする。
事業の対象 （誰を・何を）	地域の児童生徒や住民、町外観光者。
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） 平成29年11月3～5・11・12・18・19日の限定7日間、企画展【原始の海と縄文の美】を開催。関連5事業（11月3日ギャラリートーク、5日縄文時代の貝塚を歩こう、9日町内全小学6年生見学、11日土器を探そう、18日貝や魚の骨を分けてみよう）の開催。
事業の成果 （意図する成果）	アンケート結果（規模を大きくして、常設展示にしてほしい13票。展示解説が良く、より展示物を理解できた12票。普通の博物館にはないオープンスペースで近くで見れて良かった8票。大洗町の弥生時代以降の様々な時代の展示も見てみたい8票。小学校を利用した展示は良い。今後も旧大貫小学校を会場として開催してほしい6票。など）の通り、肯定・建設的な意見を多くいただき、次回開催の足がかりとなった。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		－	－	2,076千円
	決算額（千円）		－	－	1,982千円
	内訳	一般財源	－	－	1,016千円
		国県補助金	－	－	966千円
		その他	－	－	－
	執行率（%）		－	－	95.47

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	会期日数	－	－	7日間
	関連講演会	－	－	4回
成果指標	会期中の入館者数（全体）	－	－	579人（100%）
	うち町民の入館者数	－	－	387人（66.8%）
	うち町民の小中学生の入場者数	－	－	143人（24.7%）
	会期中1日あたりの入場者数	－	－	82.7人
効率指標	来館者1人当たりの経費	－	－	3,423円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		大洗町及び大洗町教育委員会が実施主体。考古資料を保管・管理し、文化財保護行政を所管するため、実施は妥当。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		大洗町内の児童・町民を中心とする総計600名弱の観覧・参加者を得、当初見込んだよりも多くの地域住民や児童生徒の見学が達成された。またアンケート結果にあるように、観覧者への普及効果が見られ、来年度開催の足がかりとなった。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		観覧者一人あたりのコストで計算すると3，000円強と高い金額であるが、地域の歴史を住民や学校区内の次世代児童へ継承していく内容からすれば、その教育的効果は計り知れないものがある。また、準備・受付・解説・関連事業のサポートなど、展示に関わる多方面で観光ボランティア「ほのぼの」の協力を受け、コスト面からみて効率的であった。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○600名近くの入館者を集めることができ、また小中学校の入館者も150名近くであり、地域への愛着をもつ子どもたちを育むためには非常に効果の高い事業である。旧小学校を会場にしたことにも意味があると思う。今後も、旧小学校を地域の拠点として活用できるといいと思う。

○郷土に埋もれている歴史や文化、史跡を学ぶことは、自分が生きている地域に対して愛着をもつよい機会である。これまでに町内で発掘された資料を整理し展示公開したこの事業は、古代ここに人々が居住し生活をしていたことを実感でき大変意義あるものと高く評価できる。地域のボランティアの協力を仰ぎながら、見るだけでなく、発掘場所を歩いたり発掘された資料に触れるなどの実体験を取り入れたこの事業をさらに推進してほしい。

平成29年度　点検評価シート

No.16

事務事業名	タブレット授業支援システム整備事業	担当課	学校教育課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	5	社会の変化に対応した教育の充実
	施策	4	情報教育の推進
根拠法令等	教育の情報化ビジョン（文部科学省：平成22年8月26日）		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	①子どもたちの情報通信技術の育成 ②情報通信技術を効果的に活用した、わかりやすく深まる授業の実現等 ③教職員が情報通信技術を活用した情報共有によりきめ細かな指導を行うことや、校務負担軽減等。
事業の対象 （誰を・何を）	大洗小学校　タブレットPC99台（パソコン教室用　33台　フリータブレット　66台） 南小学校　　タブレットPC55台（フリータブレット　55台）
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） ①学校の意見や入札を通じて目的を達成しつつも、町財政が厳しい中で、可能な限り費用を抑える。 ②学校と協議して、教材ソフトなどを必要なもの不要なものに仕分けを行う。
事業の成果 （意図する成果）	①機器の選定については、小学生ということを鑑みて高スペック品ではなく、価格を重視した機器を選定した。そのため、価格を抑えつつも多くの台数を導入することができた。 ②各校でのパソコン教室で使用しているソフトのタブレットPC版のソフトを選定したことにより、教師や児童がスムーズに使用することができた。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		－	－	12,127千円
	決算額（千円）		－	－	8,093千円
	内訳	一般財源	－	－	8,093千円
		国県補助金	－	－	－
		その他	－	－	－
	執行率（%）		－	－	67%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	入札会	－	－	6月30日
	物品納品	－	－	8月10日
	ソフトウェア講習会(大洗小)	－	－	8月21日
	ソフトウェア講習会(南小)	－	－	8月18日
	使用開始	－	－	9月1日
成果指標	タブレットPCの導入	－	－	100%
効率指標	リース料の抑制	－	－	33%抑制

【自己評価】

評価項目		評価結果		
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		教育委員会、学校、業者の意見を参考に不要なソフトなどは削減し、学校の要望を業者に伝え、使いやすいソフトを選定し実現していくことは、妥当である。また、各ソフトメーカーにより、デモンストレーションを事前に行い、どのような活用ができるかなどを検討した。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		整備後に学校側からの不具合の申し出はない。タブレットPCを含むICT機器を導入したことにより、授業での活用の幅が増え、児童も積極的にタブレットPCを活用している。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		単年度で多額の支払いが生じる買取方式ではなく、複数年度で月々少額の支払いをするリース方式にすることにより、単年度でのコスト負担を軽減することができた。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○小学校でプログラミング学習が始まるなど、情報教育が重視される教育状況のなかで、環境を整えていくことは重要で、高く評価できる。どうしてもコストのかかる事業になるだろうが、今後も工夫しつつ、更なる教育環境整備を行ってほしい。

○2020年のプログラミング教育実施に向けての環境整備が、小さな町の予算枠の中で早々に着手され、各小学校に多くの台数が導入できたことは高く評価できる。電子黒板やタブレットを取り入れた授業が公開され、研修にも積極的に取り組んでいる姿勢も評価できる。多くの指導事例を共有し合いながら、児童も先生も「楽しみながら学ぶ」ことにつながって行くことを願っている。

平成29年度　点検評価シート

No.17

事務事業名	大洗町立南小中学校共用体育館建設事業	担当課	学校教育課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	6	質の高い教育環境の整備
	施策	2	学校施設の整備と学校の組織運営の改善
根拠法令等			

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	生徒の安全を守り安心で豊かな教育環境を整備するとともに、地域住民の安全と安心を確保するため、耐震性及び面積が不足している既存南中学校体育館の改築を行う。
事業の対象 （誰を・何を）	南小中学校の生徒及び地域住民
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□委託　□補助金　□その他（　　） 平成28年度に基本・実施設計を行う。平成29年度に工事契約（建築工事、電気設備工事、機械設備工事）を行い、平成30年度に工事を完了させた後に備品購入及び引越しを行い、既存南中学校体育館の解体工事を行う。
事業の成果 （意図する成果）	南小中学校共用で使用するための適正規模化を図りながら、教育環境を充実させると共に、生徒の安心・安全な学校生活を実現させる。また、非常災害時の地域の屋内避難所を担う施設として、今後の防災拠点の役割を果たす。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		－	34,417千円	197,806千円
	決算額（千円）		－	16,056千円	197,781千円
	内訳	一般財源	－	5,156千円	3,978千円
		国県補助金	－	－	68,051千円
		その他	－	10,900千円	125,752千円
	執行率（%）		－	46.7%	100.0%

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	設計完了	－	○	－
	工事発注及び契約	－	－	○
	工事完了	－	－	平成30年度予定
	備品購入及び引越し	－	－	平成30年度予定
	既存体育館の解体	－	－	平成30年度予定
成果指標	設計完了	－	○	－
	工事発注及び契約	－	－	○
	工事完了	－	－	平成30年度予定
	備品購入及び引越し	－	－	平成30年度予定
	既存体育館の解体	－	－	平成30年度予定
効率指標				

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		学校施設は子ども達が一日の大半を過ごす場であり、また、非常災害時には地域住民の屋内避難所となるため、安心・安全な施設が求められることから、今回の事業は妥当であると考えられる。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		平成28年度に学校及び関係各課との打合せにより設計を完了させ、平成29年9月議会での承認により工事契約を行い、実施工程表通り年度末までの工事を完了させており、成果が上げられていると考えられる。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		老朽化した体育館を再生する手段として、耐震補強と大規模改修という既存の機能更新をする方法もある中で、面積不足や今後の長期的な学校施設管理費を考慮し、小中共用で使用できるカリキュラムを視野に入れ共用体育館の建設を選択したことは、コスト面で効率的であると考えられる。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
■	現状のまま継続
□	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等

【評価委員の意見】

○児童生徒の安心に加え、災害時には地域の避難所として活用する施設であり、その建設事業は高く評価できる。施設そのものとは関係しないが、せっかく小中共用の施設として建設するのだから、その活用の仕方も工夫をしていただけたらと思う。

○地域の防災拠点ともなる「共用体育館」の建設事業は、南小学校・南中学校教育の特色をさらに生かせるものとして高く評価できる。次の段階になるが、どのように共用していくかカリキュラムの工夫に期待している。

平成29年度　点検評価シート

No.18

事務事業名	要保護・準要保護児童生徒就学援助事業	担当課	学校教育課

【事務事業の位置づけ】

教育振興基本計画施策の体系	基本的方向	6	質の高い教育環境の整備
	施策	4	学習環境の整備・充実
根拠法令等	学校教育法、大洗町要保護及び準要保護児童生徒就学援助事務要綱		

【事務事業の概要】

事業の目的 （何のために）	保護者の経済的な負担を軽減することにより、すべての児童生徒が義務教育を等しく受けられるようにすることを目的とする。
事業の対象 （誰を・何を）	経済的な理由により、就学が困難と認められる児童生徒の保護者 要保護児童生徒・・・生活保護法により保護を受けている者 準要保護児童生徒・・・生活保護法により保護を受けている者に準ずる程度に経済的に困窮していると教育委員会が認める者
事業の手段 （どんなやり方で）	〈実施・運営方法〉　■ 町　□ 委託　□ 補助金　□その他（　　） ＜周知方法＞　①新入生保護者説明会での資料配布　②ホームページへの掲載 ＜申請・審査・支給方法＞ 保護者が学校へ申請→民生委員の家庭訪問調査→収入状況・家庭状況、学校長、民生委員の意見等により審査→学校を通して認定(不認定)結果を通知→各学期ごとに学校へ就学援助費(学用品費・給食費・校外活動費等)を支給→学校より保護者へ支給
事業の成果 （意図する成果）	経済的に困窮している世帯の保護者に対し、就学に必要な費用(学用品費や給食費等)を援助することにより、就学に関する経済的負担を軽減し、児童生徒が義務教育を等しく受けることが出来るようにする。

【事業費の推移】

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算額（千円）		11,492千円	11,616千円	12,688千円
	決算額（千円）		8,408千円	8,848千円	8,753千円
	内訳	一般財源	8,331千円	8,812千円	8,716千円
		国県補助金	77千円	36千円	37千円
		その他	—	—	—
	執行率（%）		73.16%	76.17%	68.99%

※要保護世帯については、中学3年生の修学旅行費のみ援助。

【評価の指標】

指標の種類	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	全児童生徒数	1,261人	1,216人	1,194人
	準要保護申請者数	103人	100人	104人
	準要保護認定者数	97人	97人	98人
成果指標	全児童生徒に占める準要保護児童生徒割合	7.69%	7.98%	7.96%
	認定率	94.17%	97.00%	94.23%
	経済的理由による長期欠席者数	0人	0人	0人
効率指標	準要保護児童生徒1人あたりの援助額	86,681円	90,462円	91,358円

【自己評価】

評価項目	評価結果			
妥当性 （実施主体・手段等は妥当か）	A	A. 妥当である	B. 概ね妥当である	C. 妥当でない
		世帯収入等の書類上の情報整理を行ったうえで、民生委員の訪問調査、学校の意見を基に総合的に判断し認定している。地域・学校との連携により、家庭状況のより正確な把握に努め、公正かつ公平に行っているため、妥当であるといえる。しかし、周知方法として新入生へのチラシ配布とホームページのみでは周知不足となる場合もあるため、改善が必要と考えられる。		
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	A. 上がっている	B. 概ね上がっている	C. 上がっていない
		就学援助費は、学校を通して適正に認定者に支給されており、保護者の経済的負担が軽減されている。経済的理由による長期欠席者はいないため、成果はあるといえる。		
効率性 （コスト面からみて効率的であるか）	A	A. 効率的である	B. 概ね効率的である	C. 効率的でない
		実費支給の校外活動費や1年生の新入学スタート支援費等、学年によって支給される金額が異なる。年度ごとの受給児童生徒の学年分布により1人あたりの平均援助額は変動するが、正確な判断の上、認定した世帯に必要な就学援助費を支給しているため、効率的であるといえる。		

【今後の事業の方向性】

方向性（総合評価）	
□	現状のまま継続
■	改善のうえ継続
□	事業を拡大
□	事業を縮小
□	休廃止を検討
□	事業完了

⇒

改善案、廃止・休止案等
新入生のみへのチラシ配布とホームページだけでは周知が行き届かないことも考えられる。 平成30年度以降については、年度初めに全学年(小1～中3)を対象に「就学援助のお知らせ」チラシを配布し、周知する。

【評価委員の意見】

○格差社会、特に一人親世帯の相対的貧困率の高い現代社会において非常に重要な事業であり、高く評価できる。少数の人だと思われるが、周知が行き渡らない状況があるようなので、きめ細かな対応を進めていただけたらと思う。

○経済的な理由で就学に困難を来している児童生徒への支援として、家庭の経済状況を的確に把握するために関係課や民生委員、学校、教育委員会が緊密な連携を取り合い判断していることは評価できる。年度初めに全学年の家庭に「就学援助のお知らせ」を配付し周知を徹底することは大変有効であると考える。

第4　評価委員からの総合評価・意見

【評価委員の意見　1】

今日の社会では効率が重視されることが多く、PDCA サイクルにのせ数字で結果を求められることが多くなっています。しかし、そのような評価においては、必ず見落とされるものが出てくるだろうと思います。私は大洗町がその小ささにこだわった街づくりを行い、教育施策としても丁寧に、学校教育でいえば児童生徒や保護者、生涯学習でいえば地域の人たちに寄り添いながら、事業を進めようとしていることに好感をもちます。

もちろん、PDCA サイクルにのせ、数字で結果を示していくことは必要でしょう。しかし、町の「小ささ」の素晴らしさは、数字にのらないものにも目を向けられることにあるように思います。つまり「小さな」ことに目を向け、小さなことを大切にする眼差しが、大洗町の小ささの長所なのだと思います。今後も、こうした視点を忘れずに事業を展開していただけたらと思います。

具体的なことを指摘させていただくとすると

① 「教育相談体制の充実事業」、「海っ子山っ子交流事業」、「生涯学習フェスティバル事業」、「町民会館自主事業」、「友好都市交流展開会事業」、「ミュージアムコンサート」、「ひぬま夏海マラソン」、「石井藤吉郎中学校野球大会」、「善行青少年ほう賞事業」、「埋蔵文化財企画展事業」など大洗らしい事業については、今後も是非継続していっていただけたらと思いますし、「手作り」の事業としてこれまで以上に町の人たちに愛される事業にしていっていただけたらと思います。こうした事業が地域の人たちの郷土への愛着を育み、将来大洗を支える人材養成につながるのだと思います。

② 「みんなにすすめたい一冊の本事業」、「学びの姿勢づくり推進事業」、「小中連携教育推進事業」、「家庭教育学級」、「第 74 回国民体育大会推進事業」、「タブレット授業支援システム整備事業」、「大洗町立小中学校共用体育館建設事業」、「要保護・準要保護児童生徒就学援助事業」などは、ある意味で多くの地域で現在進んでいる事業だと思いますが、だからこそ、量に還元できないことへの目配りの効く小さな配慮の行き届く事業にしていただけたらと思っています。

【評価委員の意見 2】

大洗町教育振興の目標『海をのぞみ　未来を拓く　大洗っ子の育成』に向かって、これまでの課題や成果を分析したうえで、平成２９年度から新たな一歩が踏み出されたことが、事業の対象や手段、意図する評価等からよく伝わってきました。また、どの事業からも、大洗の町の良さを生かしつつ運営や内容を工夫し、温かく細やかな配慮をしながら推進していることが感じられました。

「みんなにすすめたい一冊の本事業」や「学びの姿勢づくり推進事業」、「家庭教育学級事業」、「石井藤吉郎杯中学校野球大会事業」、「要保護・準要保護児童生徒就学援助事業」など、事業を量から質へ児童生徒一人一人に目を向けた読書指導への転換や児童生徒の実態を把握している町採用の非常勤講師を学習サポーターに採用するなどの本質を見据えての工夫は、形骸化しがちな継続事業に新たな風を吹き込み活性化させていると思います。これは、小さな大洗町だからこそできることで大切にしていきたい事業実施の姿勢と考えます。知の充実、感性や情緒、人間性を豊かにする「みんなにすすめたい一冊の本事業」を家庭や地域に押し広げるためにも、住民がより気軽に多目的に利用できる図書館の整備が課題になるかと思います。

また、「ミュージアムコンサート事業」、「ひぬま夏海マラソン事業」、「埋蔵文化財企画展事業」、「タブレット授業支援システム整備事業」など、未来に向けての新しい事業に着手していることも高く評価します。豊かな自然に恵まれていることや歴史的に価値あるものに囲まれていること、そして、それらを未来にしっかりと伝えていかなければならないことが、児童生徒をはじめ地域住民にまだ十分には認識されていないように思われます。成果の広報を含めて、大洗町を知り、心から愛し、誇りをもてるよう、一歩一歩効果的に事業が推進されることを期待しています。